

## 平成24年度の学校評価目標

校訓：不言実行 あてになる人間

重点目標：教員の意識改革なくして少子化の中で生き抜いていくことは不可能といえる。教員個々の「個性」を生かす指導に心をとめながら、生徒のそれぞれの気持ちを汲み取れる信頼される教師を目指し、不断の努力を惜しまない。

- 1 教師(わかる授業の工夫、授業力の向上)、生徒(授業規律や授業を受ける姿勢の改善)の両者に学力向上の姿勢をもつ。
- 2 部活動、学校行事をマンネリ化、硬直化させない。
- 3 社会生活に必要なルールやマナーの涵養と人間として当たり前の行動がとれる規範意識、善悪の価値判断など「心の教育」を教育活動全般をとおして教える。

	重点目標	具体的方策	留意事項
渉外部	中部大学との「高大一貫教育」「特進コース」「女子生徒の入学増」など本校の特色を発信し、募集定員の確保に努める。	(1) 特進、一貫コースの人数確保するため、関係機関をとおして本校の特色について積極的に広報活動を行う。 (2) 高大一貫の定着を図りつつ女子生徒の数を増やす方策を検討する。 (3) 元気で魅力ある学校を目指して学習指導、部活動や学校行事をさらに充実させる。 (4) 全職員が渉外活動に参加する場を設定する。	(1) 学校見学では生徒、保護者が楽しい雰囲気の中で、両科の学校生活や進路内容が十分理解できるようにする。 (2) 様々なボランティア活動、文化発表会、市民向け公開講座などをとおして、近隣市町および地元日進市の中学校・保護者・一般市民から信頼される学校づくりに努め、関心を引く広報活動に力を入れていく。 (3) 中学校訪問や私学展などに参加する。
総務部	(1) 災害発生時の対応の強化。 (2) 1年生OR(オリエンテーション)合宿、2年修学旅行の充実。 (3) 総務部の行事及び内容の検討。	(1) 大規模災害発生時のマニュアルの整備をする。 (2) OR合宿の実施方法及び内容と国内修学旅行の場所、内容を検討する。 (3) 地区懇談会、中部大学見学会等学校行事を検討する。	(1) 「生徒の引き渡し・緊急避難カード」の活用、緊急避難速報型の訓練の模索、検討をする。 (2) 修学旅行については平成25年度入学生に対応できるように検討する。 (3) 各行事の内容や実施日を再検討する。
教務部	(1) よりよい授業の確立。 (2) 業務分担の複数化。 (3) 文具や用品・備品の節約。	(1) 教科会等で履修状況について情報交換を定期的に行い、各関係者及び学年会と連携を密にし、早期の指導と段階指導をする。 (2) 業務で専門化しすぎ、複数の担当者を配置し遂行する。 (3) 無駄遣いを控え再利用を勧め、経費の節減に努める。	(1) 履修態度に問題がある生徒の初期指導を重視し、授業の妨げにならない、落ち着いた授業が出来るように努める。 (2) 担当を超え協力し連携し合って業務を円滑に遂行し不慮の事態に備える。 (3) 再利用や不要に貯まっていく文具や用品を最後まで利用し節減に努める。
生徒指導部	(1) 身だしなみ指導の徹底と規律の向上に努める。 (2) 登下校時のマナー向上と交通安全に努める。	(1) 問題行動の抑止と発生後の初期対応に努める。 (2) 登下校のマナー向上を図るため教員による校内外指導の実施や啓発活動を行う。 (3) 交通マナーと交通安全教育を検討する。またPTA街頭指導をサポートし合同指導を行う。	(1) 問題の早期発見に努め、全職員の指導方針・体制を確立したうえで指導にあたる。 (2) 交通安全、マナーなど関係機関とも協力連携を図り、機会ある毎に啓発活動、指導し意識の高揚を図る。

	重点目標	具体的方策	留意事項
特活部	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 全員参加型の文化祭を継続し、展示の質を高める。</li> <li>(2) 部活動を支援する。</li> <li>(3) 教育相談を充実する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 文化祭を9月第2週の金・土曜日とし、7月中旬に準備期間を設ける。クラス参加を年度当初から推奨する。</li> <li>(2) 水泳、空手道部など本校にない活動をしている個人へ支援をする。</li> <li>(3) カウンセラーとの連絡調整を押し進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 各学級による展示発表を増やすようにする。</li> <li>(2) 全国大会出場可能な生徒の把握・指導に努める。</li> <li>(3) 生徒相談会議で話題となった事柄に共通理解のもと早期に対応する。</li> </ul>
研修部	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 研修会の充実。</li> <li>(2) 現職教育の模索。</li> <li>(3) 学校生活意識調査の実施。</li> <li>(4) 「学校評価」の検討と実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 初任者研修会、初任者研究授業の実施。2年目研修の実施。</li> <li>(2) 事例研究の内容の検討と実施。</li> <li>(3) 学校生活における意識調査・学校評価(保護者対象)の実施と分析。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 私立学校展への参加など渉外部とタイアップした企画をすすめる。</li> <li>(2) 時宜を得た講演会を実施する。</li> <li>(3) 意識調査・学校評価のデータを分析する。</li> </ul>
進路指導部	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 自分の興味や適正を早期に自覚させる。</li> <li>(2) 主体的に自らの将来の目標を設定し、進路を確保させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 進路未定者を出さない。</li> <li>(2) 中部大学への進学を確保する。</li> <li>(3) 中部大学100名、就職一次合格80%、国公立大学10名、進路未定者0名</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 就職・進学指導はきめ細やかな計画と指導をすることに努め、目標が叶えられるようにする。</li> <li>(2) 中部大学併設校推薦について100名以上を目標とする。</li> </ul>
普通科	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 中部大学で活躍(学習・行事・部活動)できる生徒を育成する。</li> <li>(2) 小テスト等を実施し学力保証体制を作り、進学実績を向上させる。</li> <li>(3) 中学生に魅力のある学校作りを目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) コース別進路目標を設定する。</li> <li>(2) 基礎学力の強化を図る。</li> <li>(3) 模擬試験、検定を積極的に活用する。</li> <li>(4) 学習到達目標を設定する。</li> <li>(5) 日進市内・近隣市町の中学生が進路希望する学校。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 進学については、学科型推薦、一般入試に挑戦させる。</li> <li>(2) 自らの力で取り組める「課題プリント・教材」を精選し、基礎学力を定着させる。</li> <li>(3) 努力目標を明確化し、達成感を味わう機会を増やす。</li> <li>(4) 学校全体の学力実態を把握し、基礎学力向上へつなげる。</li> </ul>
機械電気システム科	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) ジュニアマイスター顕彰取得者増を目指す。</li> <li>(2) 実習環境の整備。</li> <li>(3) 技能大会・検定への参加種目の検討。</li> <li>(4) 習熟度別編成によりそれぞれの能力に応じて理解度を深める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) ジュニアマイスター顕彰を目標にした取り組み検定試験の年間計画を作成し、教員が指導し易い環境を作る。</li> <li>(2) 不要物を廃棄し環境整備する。</li> <li>(3) 教員の技術レベル向上と生徒が「ものづくり」の意識付けができる技術大会・検定の種類を検討する。</li> <li>(4) 今後も効果が見込められる科目について習熟度別クラス編成をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) ジュニアマイスター顕彰は、ゴールド、シルバー受賞者が年々増加するように指導を重ねる。</li> <li>(2) 実習室で実習機材が安心安全に扱えるよう整理・整頓と環境整備を図る。</li> <li>(3) 習熟度別クラス編成により、生徒自身が積極的に授業参加し理解度の向上に繋がるよう内容の精選を図る。</li> </ul>
学年会	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 生活面 ・行動力の向上。 ・学校生活の充実。</li> <li>(2) 学習面 ・学習環境の充実。 ・進路にあった学習指導の充実。</li> <li>(3) 普通科・機械電気システム科の各コースの特色を活かす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 「自ら考え行動する」「言われる前に行動する」姿勢を徹底する。</li> <li>(2) 目標のある落ち着いた生活を送る。</li> <li>(3) 科・コースの特長を活かした、独自性のある取り組みを展開する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) いろいろな機会(HR,集会)を捉えて意識の高揚を図る。</li> <li>(2) HRなどで進路指導を充実させ、具体的な目標を設定させる。</li> <li>(3) 資格取得、補習への参加、自習室利用など学習機会への積極性を持たせる。</li> <li>(4) 授業巡回を強化し、学習環境の充実を図る。</li> <li>(5) 学年間、担任間、教科担任間の連絡を密に取り、早めに状況把握し対策を検討する。</li> </ul>